

て東洋平和の爲、將又日本民族永存の爲め健戰奮闘中にして、偶々此の時に方り多年暴君の虐政に苦められたる三千萬の滿洲民族は其桎梏を脱せんが爲、獨立の旗幟を翻し、祖國復興の爲め斷然奮起するに至れり。於是期せずして日滿兩民族の堅き握手となり、曩に日滿協定の成立を視るに至れるは世界周知の事實にして、東洋平和の爲め世界人道の爲め吾人は滿腔の祝意を表する者なり。而して之に類似の例は米國と巴拿馬共和國との關係を始めとし歐洲大戰の直後、當時の米國大統領の熱心なる主張たる民族自決主義に基き、歐洲に於ける幾多の新國ボイランド、チエック、ユゴ、エストニア、リトウエナ、芬蘭等の諸國が日英米佛伊等の五強國の庇護の下に復興、或は創設せられたるの史實に於て、之を視る事を得べし。然るに豈に圖らば國際聯盟は帝國の正當なる主張及滿洲民族の熱烈なる民族自決の希望を無視して不法不當なる勸告案を可決し、遂に帝國をして聯盟より代表を撤退せしむるの己むを得ざるに至らしめたり。斯る無理解なる國際聯盟に戀々として袖を運ぬるは帝國の威信を毀くるのみならず、帝國の對滿政策遂行上多大の支障を來すを以て、此際帝國は斷乎として聯盟より脱退し其旗幟を鮮明ならしむるを要す。

由來帝國は國際聯盟創立當初より理事會を構成する五強國の一員として、十有餘年間理事會の爲め誠實なる努力を拂ひ、世界平和及人類福祉の爲め貢獻する所尠からざりしを信じて疑はざるものなり。然るに一旦滿洲問題提起せらるゝや東洋の事情に通曉せず、且東洋に利害關係を有せざる諸小國は自國擁護の立場より帝國の利害及體面を無視して我主張を排斥するに腐心し、英佛伊等の大國も亦歐洲戰役當時に於ける帝國との奮闘を顧みずし

て只管小國に迎合し、帝國をして聯盟に留まざるの百害あつて一利なきを痛感せしめ、吾人が人種、宗教、人情、環境等を全然異にする歐洲聯盟に其一員として参加したるは發起の第一歩に於て過失を冒したるものにして、今更其不明を悔悟せざらんと欲するも能はざるなり。

帝國の聯盟脱退後聯盟は帝國に對し制裁を加へ得るの勇氣ありや否や、彼等は米國の協力を仰ぐにあらざれば何事も成し得ざる實に憐むべき境遇にあることは掩ふべからざるの事實なり。米國果して聯盟の希望に應ずるの用意ありや否や。米國が其國運を賭して乾坤一擲の一大活劇を演ずるの鞏固なる決意なき限りは、聯盟の米國に對する希望は到底達成の見込あらざるものと觀測するの至當なるを信するものなり。雖然猥りに聯盟乃至米國の態度を揣摩憶測し、勝手に判斷を下すは無益なるのみならず、一步を誤るときは挽回すべからざる危険を伴ふを以て、吾人は其當然の權利たる自衛權を行使する爲め全土を擧げて焦土と化し、最後の一人に至る迄奮闘するの牢固不拔の決心をなすと同時に國防其他萬般の準備に全力を傾注し、有事の際萬遺算なきを期せざるべからざるなり。

嗚呼國家非常の秋には非常の決斷を必要とするに拘らず、眼中政黨あつて國家なき政黨を基礎とする内閣、又歐米政治家の一顰一笑に喜憂する小心翼翼たる政治家外交官等に向つて、斯る希望を抱くは全然木に縁つて魚を求むるの類と何等擇む所なきを以て、此非常時局に際し吾人の熱望措く能はざるは拔山蓋世の勇氣と果敢斷行の鐵腕とを有する一大英雄の出現其ものなり。